

本年度(令和2年度)の学校評価

本年度の重点目標 (課題)	1 学習指導・進路指導の充実により、より高いレベルでの進路実現を目指す。 2 学習との両立を目指し、運動部も文化部も積極的に部活動に取り組む。 3 生徒が自主的、主体的に学校祭などの学校行事に取り組む。 4 姉妹校との国際交流など、国際理解教育に積極的に取り組む。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務 (総務部)	・防災体制の整備	・生徒達の防災意識を高める。	・防災委員会を中心として生徒主体で防災意識を喚起する。 ・いざというときに対応できる力を身につける。
	・PTAと学校の相互理解	・PTAと職員・生徒の風通しを良くする	・総会、理事会、懇談会、文化祭でのバザー・模擬店、研修旅行などを通じて、協力体制を構築する。
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る ・学力向上を図る	・学習意欲を高めるような授業に心がける。	・学習活動における達成感や満足感を大切に、知的好奇心や向上心を育てる。 ・次期学習指導要領で求められている、主体的、対話的で深い学びを実現するために、カリキュラム委員会と連携して授業改善を推進する。
		・家庭での学習習慣を身につけさせる。	・日常の宿題や週ごとの課題等で、家庭での学習を具体的に指示し、家庭学習に取り組ませる。 ・課題の実施状況や指導方法を情報交換し、常に改善を心がける。
	・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。	・授業の予習復習や日常の宿題を励行させることで、基礎・基本を定着させ、発展的な学習内容も具体的に指示することで、確かな学力を育成する。	
	・授業規律の徹底を図る	・授業を大切にさせる。 ・学習環境を整える。	・わかる授業、参加する授業に心がけ、授業への意識を高めさせる。 ・授業に集中できない生徒に対しては、組織的、段階的な指導を行う。 ・担任会、学年会、教科主任会との連携や協力で、学習環境の整備に取り組む。
生徒指導 (生徒指導部)	・規律正しい生活習慣の確立	・遅刻者を減少させる。	・遅刻が多い生徒は、学年団と協力しながら「早出指導」などを実施し、基本的な生活習慣を身につけさせる。
		・身だしなみを向上させる。	・常に身だしなみを整えるよう指導する。特に化粧やスカート丈を短くする行為をなくすように指導する。
		・通学マナーの向上を図る。	・「【0の日】朝の交通安全指導」や「下校時交通安全指導」を通して安全に通学するよう指導する。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する	・必要に応じて担任が面談し、生徒指導部と学年会で連携して解決を図る。
生徒会 (生徒会部)	・生徒会活動の充実	・議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。	・議員の参加意識を高め、クラスにおいて学校行事に関する議論の活発化を図る。 ・生徒会執行部と議員の意思疎通を密にし、学校行事を円滑に行うことができるようにする。 ・機関誌や広報を発行し、生徒への情報発信を行う。
		・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・生徒が積極的に意見を出し、主体性を持って行事の運営に当たるよう指導する。
		・部活動の活性化を進める。	・部室や活動場所の環境整備に努める。 ・部活動登録カード等を活用して実態把握に努める。
		・ボランティア活動への参加を進める。	・エコキャップ運動やあいさつ運動を行い、ボランティア活動への参加意識を高める。
進路指導 (進路指導部)	・より高いレベルの進路目標実現に向けて早期の進路目標設定と学力の向上	・進路指導体制を充実させる。	・担任、学年、教科と連携を図り、進路検討会での個別検討を一層充実させる。その際進路希望調査や実力テスト、模擬試験のデータなどを積極的に活用する。また、入試説明会などで得た情報の共有化を図る。
		・キャリア教育を推進する。	・LTや「総合的な学習の時間」を活用して、生徒の進路や職業に関する意識を継続的に喚起する。また、長期休業中のインターンシップへの参加を広く呼びかけ、積極的な参加を促す。
		・補習、模擬試験を充実させる。	・進路実現に向けて、教科や学年と連携して平常・夏季・冬季補習の講座内容の充実を図る。また、模擬試験の目的を学力養成と位置づけ受験を積極的にすすめるとともに事前事後の指導を充実させる。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
保健 (保健部)	・健康観察の徹底 ・教育相談体制の充実	・朝のSTや各授業開始時の健康観察を全職員で行う。	・健康観察のポイントを知らせ、複数の目で観察する。 ・気になる生徒は保健室に報告してもらい、関係者で対応を話し合う。
		・生徒の心身の問題点を早期に発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。	・保健室利用の数や理由の情報交換を密におこない、生徒の健康状態の把握に役立ててもらおう。 ・インフルエンザ等の感染症の罹患状況を早期に把握する。
	・教育相談についての教職員の知識や理解を深める。	・教育相談の知識や理解を深める方法を検討する。	
	・ごみ分別の徹底とごみの減量化	・ごみ分別とごみ減量について呼びかける。	・増加するごみ処理費用を軽減するために分別の徹底と減量化を職員、生徒ともに取り組む。 ・リサイクル可能なものは捨てないように呼びかける。
図書 (図書部)	・学習情報センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。	・図書資料の分類配列を適切にし、その目録を整備する。 ・学習の場としての機能を高めるための創意工夫を行う。 ・生徒の読みたい図書資料を中心に収集する。
	・読書センターとしての機能の充実	・生徒の図書貸出・利用増を図る。	・生徒の読みたい図書資料を収集する。 ・展示・広報・企画で読書を喚起する。
		・読書会の充実を図る。	・読書会充実のため、教員が創意工夫を行う。
国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際感覚を高める	・メントーンガールズセカンダリーカレッジとの交流の継続	・姉妹校、旅行者と次年度以降に向けて調整する。 ・スカイプの導入、総合の授業など相互訪問以外での生徒間交流を継続する。
		・イングリッシュ・サマーキャンプの実施	・委託業者と連携し、研修内容の充実を図り、研修中の生徒の安全確保に努める。
		・中村地球市民教室の実施	・事前LTを実施し、内容の充実を図る。
		・生徒国際交流委員会の活性化	・全校生徒の国際意識高揚に寄与できるよう指導する。
		・留学生の受け入れ	・円滑な学校生活のための支援を行う。
		・JICA 訪問の実施 (国際理解コース)	・ベトナム研修旅行の事前学習の1つとして計画する。
		・ベトナム研修旅行の実施 (国際理解コース)	・生徒や引率者の安全を確保できるよう現地の情報収集に努める。 ・異文化に触れ国際性を身につける機会となるよう研修内容の充実を図る。
		・エンパワメントプログラム (国際理解コース)の実施	・高度な発信型の英語力及び異文化理解力を養えるよう研修内容の充実を図る。
第1学年	・基本的な生活習慣の確立	・遅刻早退欠席をさせないよう、言葉かけ、記録表等を用い生活リズムを整えさせる。	・指導部と連携し遅刻の多い生徒には早出指導を行うなど生活を改善させる指導を行う。また家庭との連絡を密にし生徒の生活状況の把握に努める。
		・規則を理解させ、守らせる。身だしなみに対する言葉かけを普段から行う。	・個人指導に加え、全体集会時等に全体の規範意識を高められるように言葉かけをする。指導連絡票を利用するなどして段階的な指導を行う。
		・時間を守らせ、挨拶をしっかりとさせる。	・授業開始時には授業準備を終え、挨拶をする習慣を定着させる。普段から教員からも挨拶を行うように努め、言葉かけしやすい状況を作る。
	・学習習慣の確立	・授業を大切に作る雰囲気を作らせる。家庭学習に対する助言を行う。	・授業規律を徹底し、集団で授業に集中できる環境作りを意識させる。授業を受けるのにふさわしい状況にある生徒は個別に指導し、改善を促す。場合によっては指導連絡票を用いて段階的に指導を行う。
第2学年	・進路目標の明確化と学力向上	・進路目標を明確にし、達成へ向けて学習を開始させる。	・家庭学習記録表や面談等を活用した学習目標の把握を行い、具体的な進路目標を持たせて学習意欲を高めさせる。
		・考査の結果や模試結果を活用し、自己の実力を正確に認識させ、目標達成に向けて対策を考えさせる。	・社会の変化に柔軟に対応し、進路ガイダンスや学部学科説明会などの情報や体験を踏まえながら2年後を見据えて具体的な対策を考えさせる。
	・中心学年としての自覚の育成	・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、その中心となって活動できるよう、指導、助言する。	・生徒主体で計画を立て、学校行事や組織運営を行えるような資質を高めるため、リーダーを育成し、自主的に行動できるよう助言・指導を行う。
		・後輩の模範となるよう意識して行動させる。	・身だしなみ指導・学校行事への取り組みなど上級生として下級生の見本になる態度や行動を自覚させるよう声かけを行う。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
第3学年	・最高学年としての 自覚育成	・学校行事を積極的に取り組ませる。 ・規律ある生活態度で下級生の模範となるようにさせる。	・球技大会や学校祭などをルールの中で積極的に参加させ日常との切換えをつけさせる。 ・日常生活からモラルやマナーを守らせ下級生の模範となる行動を取らせる。
	・進路実現	・進路決定に対し妥協せず最後まで努力させる。 ・個々の希望に合わせた進路指導ができるように進路指導部と協力する。	・早期に安易な進路決定する生徒を増やさないように指導し、決まった生徒も卒業まで学習意欲を継続させる。 ・進路検討会等の有効な活用法を模索し、生徒個々に最適な進路指導ができるように情報交換を密にする。
その他	・中村高校の特色づくり	・国際理解コースを充実させる。	・新たに加わった学校設定科目や2年次の「総合」を、関係教科と連携を取りながら充実させる。 ・グローバルルーム（視聴覚教室）やタブレット等のIC機器を有効活用する。
	・職員の健康管理	・勤務時間を適正に管理する。 ・業務の効率化を図る。	・月80時間を超える時間外労働をした職員には、医師による面接指導を勧める。 ・分掌のグループ化を機能させ、さらなる再編につなげる。 ・行事の精選を進める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・学習指導における学力向上のための取り組み ・生徒指導における規律正しい生活習慣の確立 ・進路指導における一層の進路意識の育成	

前年度（令和元年度）の学校評価

本年度の重点目標（課題）	1 学習指導・進路指導の充実により、より高いレベルでの進路実現を目指す。 2 学習との両立を目指し、運動部も文化部も積極的に部活動に取り組む。 3 生徒が自主的、主体的に学校祭などの学校行事に取り組む。 4 姉妹校との国際交流など、国際理解教育に積極的に取り組む。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務 (総務部)	・防災体制の整備	・生徒達の防災意識を高める。	・始業式後のシェイクアウト訓練、防災委員による学校祭での発表、防災講話などで意識の啓発に努めた。意識が継続するために、さらなる工夫が必要。
	・PTA活動の活性化	・PTAとよく連絡を取り、学校に寄与できる体制を作る。	・総会、懇談会、研修旅行、理事会、文化祭でのバザー・模擬店など、積極的な活動を通じて、相互理解を促進できた。
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る	・学習意欲を高めるような授業に心がける。	・多くの教科で、視聴覚機器や情報機器を使用したり、主体的・対話的で深い学びをめざす授業改善に心掛けた。
		・家庭での学習習慣を身につけさせる。	・宿題や週末の課題等の提出を粘り強く指導した結果、多くの生徒で家庭での学習時間が少しずつ増加してきた。その一方で、依然学習時間が少ない生徒もいるのでその対応が求められる。
	・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。	・補助教材プリントやテスト等の活用で、基礎学力の定着を図った。また、発展的な学習に取り組むことにより、知識、技能だけでなく、思考力、判断力、表現力の育成にも効果があった。	
		・授業規律の徹底を図る	・授業を大切にさせる。
生徒指導 (生徒指導部)	・規律正しい生活習慣の確立	・学習環境を整える。	・学級担任や学年会などの協力で、落ち着いて環境で授業を行うことができた。
		・生徒が積極的にあいさつできるようにする。	・多くの生徒が挨拶をしてくれる。全生徒が積極的に気持ちよく挨拶ができるよう、他分掌とも協力して指導を継続していきたい。
		・遅刻者を減少させる。	・全校的には減少した。しかしながら、学年によってばらつきがある。遅刻が増えかける、もしくはそれ以前に、きめ細やかな指導をしていく必要がある。
		・身だしなみを向上させる。	・女子のスカート丈の短さや化粧は、落ち着きはじめている。化粧については段階的指導を導入した。年度当初から年度末、入学年次から3年生へと持続的な指導が必要である。
	・通学マナーの向上を図る。		・重点を絞った段階的指導を導入した。指導件数は増加したが、それによって、個々の生徒に非常に危険な行為をしていたことを理解させることができた。 ・自転車の並進や道いっばい広がっての徒歩などの苦情を多くいただいた。交通ルールを守らせるだけでなく、マナーも向上させる指導も強化していきたい。
・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する	・アンケート実施により、いくつかの事案が発見された。学年会で積極的な情報共有につながった。 ・担任の先生等による迅速な対応で、特別な指導に至ることがなかった。	

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒会 (生徒会部)	・生徒会活動の充実	・委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。	・執行部及び議員に主体性と責任感をもって学校行事に参加するよう働きかけた。今後もLTや生徒議会での議論が深まるよう指導したい。 ・WILLや機関誌を通じ、生徒会活動に関する情報を発信した。生徒が興味や関心をもてるよう内容を改善したい。
		・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・長期的視野に立って学校行事の運営を進めるよう指導したが、教員の指示待ちの姿勢が目立つ生徒が多かった。生徒会全体で迅速に仕事を進める体制を作りたい。
		・部活動の活性化を進める。	・部長会で部室の環境整備を促すとともに、活動内容の把握をした。 ・新入生オリエンテーションや部勧誘で部活動への参加を促した。 ・教員数の減少に対応するため、部活動の統廃合を行った。部活動が円滑に実施できるよう、今後も工夫していきたい。
		・ボランティア活動への参加を進める。	・エコキャップの回収やあいさつ運動、募金などの活動を行った。多くの生徒に参加してもらえるよう、工夫していきたい。
進路指導 (進路指導部)	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・進路指導体制を充実させる。	・3年の進路検討会は、生徒の個別検討については充実してきた。1、2年生の進路検討会については実現できていない。今後はまず学年会で情報交換の機会を作っていきたい。
		・キャリア教育を推進する。	・インターンシップは、進路意識の向上に大いに役立った。今後は看護、幼稚園以外の職種への広がりが必要とされる。また「総合」の時間でのキャリア教育の充実も引き続き検討課題である。
		・補習、模擬試験を充実させる。	・1、2年の校内実施の模試は、9割以上の生徒が受験をした。実力養成とデータの活用に向け事前、事後指導のさらなる充実が求められる。
保健 (保健部)	・健康観察の徹底	・朝のSTや各授業開始時の健康観察を全職員で行う。	・「毎月の健康観察のポイント」にそって健康観察の徹底と連絡をお願いした。健康観察の記録も残した。
		・生徒の心身の問題点を早期に発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。	・毎回の担任会での「生徒情報」を、保健室に知らせてもらった。 ・毎月の「学年会」へ出席して生徒情報交換につとめた。 ・保健室での面談後、数名をSCに繋げた。
	・教育相談体制の充実	・教育相談についての教職員の知識や理解を深める。	・今年度は11月にクレペリン検査の解説会を(株)SKKから講師を招いて行った。全国の傾向と本校の現状、昨年度との比較、1年生の気になる生徒についてのコメントなど有意義な会となった。
図書 (図書部)	・学習情報センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。	・生徒のよく利用する小型本を中心に326冊収集した。
	・読書センターとしての機能の充実	・生徒の図書貸出・利用増を図る。	・貸出数は1,035冊、利用者数はのべ6,487人であり、昨年度より増加した。 ・生徒を読書や図書館利用へと誘う工夫として、館内に文学クイズや応募コーナーを設置したが、読書のために訪れる生徒はまだ少ない。図書委員による新着ポスター掲示など工夫していきたい。
		・読書会の充実を図る。	・読書会に向けて7回の実行委員会を開き、指導した。読書会は、図書委員・実行委員が中心となり、今年も充実した活動になった。
国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際感覚を高める	・メントンガールズセカンダリーカレットとの交流の継続	・限られた日程の中で1、2年生全クラスの生徒と交流できるように工夫した。・茶道、浴衣の着付け、書道など日本文化体験を行った。
		・イングリッシュ・サマーキャンプの実施	・生徒68名が参加し、講師やプログラムに対する満足度も高かった。 ・今後のキャンプの継続の有無も含めて、実施場所、事前研修、プログラム内容の検討していきたい。
		・中村地球市民教室の実施	・生徒全員の異文化理解、国際性の育成の場として、今後も継続する。
		・生徒国際交流委員会の活性化	・MGSC生来校の際、役割を与え、責任をもって取り組ませることができた。 ・委員が夏休みに調べたテーマを中村地球市民教室で扱うことで、生徒全体の国際理解に対する意識を高められるよう指導した。 ・各クラスで設定した探究テーマを深めるため、生徒主体で準備LTの内容を検討した。
		・留学生の受け入れ	・日本語指導、ホストファミリーや留学団体との連絡調整を行い、留学生が快適な学校生活を送ることができるよう支援した。
		・JICA訪問の実施(国際理解コース)	・開発教育について考えさせる良い機会となり、ベトナム研修の事前学習としての動機付けとなった。
		・ベトナム研修旅行の実施(国際理解コース)	・様々な体験学習を通して、国際的な視野を広げることができた。 ・学校祭で研修報告ポスターを掲示し、全校生徒に向けて研修で学んだことについて還元を図った。
		・エンパワーメントプログラムの実施(国際理解コース)	・異文化理解力、英語力の更なる必要性に気付かせることができた。 ・英語でのコミュニケーション能力を向上させることができた。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第1学年	・基本的な生活習慣の確立	・安易な遅刻早退欠席をさせないことで、生活リズムを整えさせる。	・遅刻指導を段階的に行い、こまめに声をかけることによって安易な遅刻欠席早退をさせないよう努めた。また、保護者との連絡を密に行うことで日頃の体調不良や悩みなども把握するよう努めた。 ・生徒の変化や行動に気づき、保護者と連携して対応することで規範意識を高める努力を行った。今後も引き続き継続をしたい。
		・規則を守らせ、身だしなみを整えさせる。 ・挨拶をしっかりとさせる。	・生徒の変化や行動に気づき、保護者と連携して対応することで規範意識を高める努力を行った。今後も引き続き継続をしたい。 ・授業開始の挨拶をしっかりと行わせ、廊下等での挨拶も励行した。自ら挨拶のできる集団に育てたい。
	・学習習慣の確立	・授業を大切にしている雰囲気を作らせる。	・授業規律を整えさせるために、授業の様子を的確に把握し、携帯電話のマナーや授業中の姿勢については学年主任からの指導を行った。
第2学年	・進路目標の明確化と学力向上	・進路目標を明確にし、達成へ向けて学習を開始させる。	・自主的な学習活動を促すために補習の期間などは自習室を設け、生徒自身が課題を見つけ取り組めるようにした。 ・学部学科説明会では生徒の希望に応じ模擬授業を受けさせ、自分の進路先がどのようなものかを考えさせることができた。
		・模試結果を活用し、全国レベルでの自己の実力を認識させ、目標に向けて対策を考えさせる。	・新しい入試に対する意識を持たせるように指導したが、入試制度の変更により生徒にも一部混乱が見られた。 ・改めて自分の学力がどのくらいかを認識させどんな問題が来てもいいようにまずは基礎固めをしっかりと行うような指導をしていきたい。
第2学年	・中心学年としての自覚の育成	・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、その中心となって活動できるよう、指導、助言する。	・学校行事では積極的かつ協調性をもって活動できていた。また周りに配慮ができるような行動もよく見られ、成長も感じられた。 ・一部ではあるが自分本位な行動をする生徒も見られるので継続的かつ細やかな指導が必要である。
		・後輩の模範となるよう意識して行動させる。	・身だしなみについては例年に比べてかなり落ち着いているように思う。しかしまだ十分とは言えないので今後も継続的な指導が必要。
第3学年	・最高学年としての自覚育成	・学校行事を積極的に取り組ませる。	・進路実現と学校生活の両立は概ねできた。多くの生徒がルールを守りながらも精一杯楽しもうという気持ちで取り組めたと思う。 ・体育大会の学年種目が悪天候により中止となったが、翌日に実施する機会をいただき、生徒たちも不完全燃焼になることなく受験への切替ができた。
		・規律ある生活態度で下級生の模範となるようにさせる。	・自主自律を強く意識させ、主体的に正しい判断で行動することを望んだ。多くの生徒はきちんと理解し成長を感じさせられた。しかし一部の生徒においては、その場の指導には従うが模範となるまでには至らなかった。 ・学年末考査後から、欠席者が多く出た。この時期の欠席をしないようHRや学年集会で伝えてきたが、残念な部分があった。
	・進路実現	・進路決定に対し妥協せず最後まで努力させる。	・業後に自習室を設け多くの生徒が活用した。 ・学年末考査後に「春季補習」を設定し、理系の生徒を中心に最後まで努力する気持ちの強い生徒が集まった。 ・併願可の推薦入試で合格した後も第一志望合格に向け努力する生徒が見受けられた。
		・個々の希望に合わせた進路指導ができるように進路指導部と協力する。	・進路検討会や進路ニュースなど進路指導部の助言と協力で様々な進路に対応した指導ができた。 ・小論文や面接指導など学校全体で指導にあたっていただけた。 ・進路指導部のご協力をいただき、2学期期末考査後に一般入試受験者を対象とした「最新進路情報報告会」を実施することができた。
その他	・中村高校の特色づくり	・国際理解コースを着実にスタートさせる。	・コース主任が中心となり、国際理解部と協力しながら予定通り行事を実施し、成果を上げることができた。行事の実施時期の見直しと、昨年度、不十分と感じた広報活動を行った。
	・職員の健康管理	・勤務時間を適正に管理する。	・職員の在校時間の把握を着実に行うことができた。職員の健康管理のために、クラス数減に伴う教員定数の削減に備え、協力体制のさらなる確立と、行事の精選が急務である。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・学習指導における学力向上のための取り組み	
		・生徒指導における規律正しい生活習慣の確立	
		・進路指導における一層の進路意識の育成	